

人権教育を基盤としたあかしや教育

佐伯 卓也

(京都市立朱雀第四小学校長)

はじめに

朱雀第四小学校は、児童数 268 名、育成学級 2 学級を含む 14 学級である。学校教育目標を「愛する心を育み、未来を生き抜く力を育てる～相手を尊重し、自ら意思決定できる子どもの育成～」として、人権教育を基盤にあかしや教育を展開している。本年度は、文部科学省人権教育推進（一年次）指定、エネルギー教育モデル校（一年次）指定、学校保健・安全研究実践校指定を受けて、研究を進めている。研究テーマは、「話し合い活動の中に合意形成の視点を取り入れた授業の構築」とし、21 世紀を生き抜くための確かな人権感覚と学力向上を目指している。

設定の理由

多様な現代社会を生き抜くためには、様々なことに柔軟に対応する力が必要となってきた。今の子どもたちが大人になる 10 年、20 年後は、今よりもっと速いスピードで社会が変化していることが予想される。その頃の職業はというと、今にはない職業が半分以上を占めるともいわれている。

また、3. 11 の東日本大震災以降、予期せぬことに対して、対応できる力というものも見直されている。それまでの考え方が一変して、新たなものの考え方をしなければ、自分たちの生活が成り立たない。今まで安全とされていたものや危険と認識していなかったものが覆され、震災や自然災害など、不測の事態というものに即時対応しなければならないことが起こっている。さらに、地域力というものも見直されている。人は、一人では生きられず、思いやりをもって共に助け合うことの大切さというものも再認識されている。

21 世紀は人権の世紀と言われている。確かな人権感覚とは、相手を思いやるだけでなく、相手を意識し、相手のことを理解したうえで、自分の意見を持ち、よりよい解決の方向にもっていくことができるための感覚と捉えている。互いのきずなが深まるように、自分を愛する、人を愛する心が必要となってくると考えられる。

また、確かな学力とは、子どもたちが大人になった時、自分のもっている学力を最大に活用し、予期せぬことや新しいものに応用力を働かせ対応できる力と捉えている。

めざす子ども像

- 自らあいさつができる子ども
- 思いやりのある言動ができる子ども
- 進んで学習することができる子ども
- 人の意見が聞け、自分の意見が言える子ども
- 困難なことにも立ち向かうことができる子ども



○ルールが守れる子ども

あかしや教育

人権教育基本方針

『21世紀を生き抜くための確かな人権感覚と学力の向上』

児童が成長し、高校、大学、就職と進路を決定して、社会に出ていくにあたり、様々な人との関わりや自らの意思で物事を決めることは数多くある。そのときに、自分のことを自分で決める力や、自分の意思をはっきりと伝える力が必要不可欠になると考える。

そこで、学校教育目標である「愛する心を育み、未来を生き抜く力を育てる」の「愛する心を育む」部分を人権教育の根幹に据え、相手を思いやるだけでなく、相手を意識し、相手の事を理解したうえで、自分の意見を持ち、より良い解決の方向にもっていくことができるための確かな人権感覚を身に付け、互いのきずなが深まるように、自分を愛する、人を愛する心を育てるようにしたい。また、「未来を生き抜く力を育てる」ことを確かな学力を身に付けることと考え、子どもたちが大人になった時、今よりもさらに速く変化することが予想される社会で、自分の持っている学力を最大に活用し、予期せぬことや新しいものに応用力を働かせ対応できるようにしたい。

基本方針の実現に向けて、本校では、3つのプロジェクトの取組を推進している。人権意識向上を目指して「人権意識向上プロジェクト」、学力向上を目指して「学力向上プロジェクト」、家庭も含めて学校生活の向上を目指して「生活向上プロジェクト」を構成した。それぞれのプロジェクトにコーディネーターを置いて、取組を推進する。

人権意識向上プロジェクトーハートフル学習（人権学習）・同和問題指導・道徳指導

学力向上プロジェクトー研究の推進・重点教科（算数科）・あかしや環境プログラム

生活向上プロジェクトー学級経営の充実・個人カルテの活用・いじめアンケート

①人権意識向上プロジェクト

・ハートフル学習（人権学習）の取組

5月 憲法・いじめに関する指導

11月 総合育成支援教育



6 月 総合育成支援教育

12 月 人権月間

7 月 命に関する指導

1 月 男女平等教育

9 月 外国人教育

2 月 性に関する指導

10 月 国際理解教育

3 月 まとめ

・ハートフル集会の取組

児童の人権意識を高めるとともに、人権が尊重され、互いに支え合う集団づくりを進めることをねらいとして、『ハートフル集会』を行った。今年度は、「ことば」をテーマに各学年で内容を考えてハートフル学習をしたうえで、集会に臨んだ。

＜ハートフル宣言＞

児童会の児童から、ハートフルの意味を紹介し、ハートフル集会に込められている思いを伝えた。

『ハート』は、「やさしい・うれしい・たのしい・だいすき」の気持ちとし、それらの気持ちでみんなの心をいっぱいになろうと投げかけた。6年生は代表で人権に関する行動目標「ハートフル宣言」も発表した。



＜全校群読＞

群読で扱った詩は、今回のハートフル学習でテーマになった「ことば」に関係のあるものである。児童が、言葉についての関心を高めて集会に参加できるように考えた。群読は、低学年と高学年をペアにしてパートを分けた。ペア学年を組むことで、声を合わせる意識や、リズムよくはっきりと話すことの大切さを考えながら群読をすることができていた。



・同和問題に関わる単元の指導（社会）

6年の授業公開の単元を、グループにわかれ全員で資料の検討を行い、グループで検討した内容を交流する。6年生による授業公開を行う。

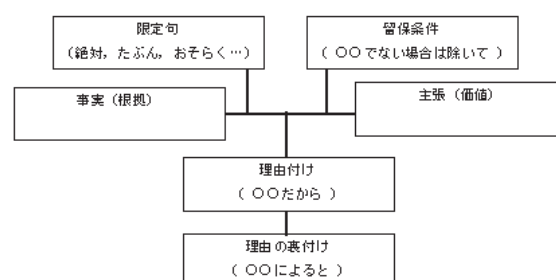
・人権に関わる指導（道徳）

道徳の時間における人権に対する認識を育てる指導について重点的に扱う。

②学力向上プロジェクト

本年度は、合意形成の視点を取り入れた授業の構築に向けて、相手を意識したうえで、自分の意見を持ち、伝えることができる児童、また相手の意見をしっかりと聞き、相手の思いをしっかりとくみとり、相手の言いたいことを説明することができる児童の育成を目指したい。そのためには、

＜トウルミンモデルの図＞



児童の発達段階に応じた考えや意見を書き、まとめられるモデルがあれば、自分の意見を持ち、相手を意識して伝えることができるのではないかと考え、本年度は、各学年の発達段階に応じて、「朱四版ツールミンモデル」を作成することとした。

本研究では、「ツールミンモデル」の考え方を取り入れ、本校独自の考えを整理することができる「朱四版ツールミンモデル」を作成し、研究を深める。

授業の中において、どのような場面で、上記の「朱四版ツールミンモデル」を取り入れることができるのかについて探る。中心とする教科や場面は以下のようなものである。

- ・環境に関わる教科（総合的な学習の時間・生活科）
- ・道徳の時間
- ・ハートフル学習（人権学習）
- ・算数科における話し合いの時間

また、「ツールミンモデル」をどのような場でどのように使って交流を行えば、相手の思いをしっかりとくみ取りながら相手の考えや意見を聞くことができ、自分の意見も整理してまとめることができるのかについても研究を深める。

<日常の取組>

・朝チャレンジ

年度当初、人前では自信を持って大きな声で話しにくいといった、「話すこと」に課題が見られる児童の実態があった。そこで今年度から「朝の群読」の取組を始めた。火・金の2日間、朝の15分の帯時間に群読の練習をし、朝会で学年ごとに群読の発表をした。



朝の練習の様子



児童朝会の発表の様子

・チャレンジタイム

学習の基礎・基本の定着を図り、児童が主体的に学ぶ力を育てるために、月曜日から金曜日まで10分間の昼の帯時間を「チャレンジタイム」として設定した。内容については、月・水・金曜日は算数、火・木曜日は国語の復習問題を行っている。算数については、当該学年の既習内容の定着に向けて、3枚程度のプリントを行い、自分で採点・直しを行う。国語についても、文法や漢字の問題を中心に、プリント学習をしている。



チャレンジタイムの様子

各学年時間内に配られたプリントができた児童については、これまでのプリントに再度挑戦し、習熟を図る。

・課外学習

毎週火曜日と金曜日の6・7時間目に課外学習を行った。これまでは一斉指導をしてきたが、今年度から個別支援の時間とした。まず、児童一人ひとりが国語や算数の課題プリントを行う。さらに、プリント学習後も、学習の定着が難しかったり、宿題の取組が不十分であったりする児童に対し、重点的に担任が関わる時間とした。そうすることで、授業の内容をしっかりと定着できるようにした。

また、個別支援とは別に、これまで本校独自に実施してきた国語と算数の「診断テスト」を、学習の確かめとして実施した。夏休み前後、冬休み前後、年度末の年5回行う。国語の内容は漢字に限定し、学年で学習する漢字が定着しているかを確かめるようにした。算数については本校独自の問題を作成している。算数の内容は、日々行ってきた復習プリントの中から選んだものであり、基礎・基本の内容である。

・長期休業中の取組

長期休業中、子どもたちが規則正しく生活をし、計画を立てて学習を続けていくことができるよう、朱雀第四小学校の取組を考えた。取組のねらいとして「基礎学力の定着を図ること」と「個人課題を設定し、探究していく力を育むこと」の2つがある。そのねらいを達成するために以下の取組を考えた。

チャレンジ学習会

夏休みの間「チャレンジ学習会」という学習日を設けた。夏休みの前半6日間、後半2日間の計8回である。時間は9時～10時までの1時間である。

「サマーチャレンジ」個別探究活動

夏休みに、「サマーチャレンジ」という個別探究活動の課題を全校児童対象に設けた。主なねらいとしては「個人課題を設定し、探求する力を育むこと」である。児童自ら選んだ課題に対して、長い期間をかけたり、普段行けないようなところへ行ったりして研究をすすめることは、長期休みだからこそできることである。今年度は、児童の様々な興味に合わせて研究のテーマを選べるように理科だけでなく、算数科や社会科、調べ学習にも内容を広げた。



・指導力向上の取組

今年度は算数科を重点教科としている。その算数科を中心に、教員の指導力向上を主なねらいとして、今年度から「みんなの学び舎」の取組を始めた。内容は授業公開と事後授業研究会である。具体的には、全担任がティーチングプラン（指導略案）を作成し、算数科の授業公開をする。教職員をA・Bグループに分けて、それぞれのグループの授業を見に行き、授業後の研究会をもった。

③生活向上プロジェクト

本年度は、学級経営の充実を重点として、個と集団を高める。

・「学校で気にかかる行動」の分析と実践課題の設定及びその指導

『問題行動』の情報交流と指導課題の設定から取組を考え、実践する。緊急の場合は、常時プロジェクトを開く。

・実践課題を設定し、学級活動のなかよし学習の場を通して課題解決を図る。

・なかよし学習（年間4回実施）

・個人カルテの作成

①気にかかる児童については、校務支援システムの、いいところみつけのところに「長期的課題」「短期

的課題」を記入する。

- ②何か生徒指導に関して問題が起こったとき、困りが生じた時には、校務支援システム「いいとこみつ
け」のところに記入する。

・全校的視野に立った子ども理解

- ①連絡メモを使い情報交換を行う。

- ②生活向上プロジェクトや職員朝礼の場で児童の様子を交流して把握し、組織的な観点で子どもを見ていき、楽しい学校づくりの継続を図る。また、不登校児童、問題行動上特に気にかかる児童については、個人カルテに記入し指導に生かす。

- ③『みんなのきまり』の共通理解と指導の徹底

場面に合った、見本となる姿を具体的に示し、子どもが進んでその姿を目指すようにする。

あかしや環境学習

本校において、環境学習は命を大切にするという観点から、人権教育の大切な柱として位置付けている。児童が環境や環境問題に関心を持ち、正しい知識と人間と環境の関わりについて認識する。特に、動植物、光、水、風などを体感する経験を重視し、その恵みに感謝する心情を育てる。また、自然を人間の手でどのように甦らせていくのかという観点を取り入れ、CO2削減に向けて自分たちには何ができるのかを考えて行動しようとする態度を養う。

環境教育の主題 生き方を学ぶ ～体感・活用・感謝・共生・再生～

ひまわり 「やさいとなかよし」(全 18 時間)

1 年「いきもの大すき」(全 29 時間)

2 年「めざせいきものはかせ」(全 64 時間)

3 年「こん虫パラダイス」(全 42 時間)

4 年「グリーン UP プロジェクト」(全 41 時間)

5 年「アイデア光る省エネ大作戦」(全 40 時間)

6 年「エコライフ宣言」(全 60 時間)

